# 第一大洞天と四大懐薬

山下一夫

## 1．はじめに

西晋の魏華存の故地である王屋山は、唐代に司馬承禎によって全国の洞天福地の首位に立つ「第一大洞天」とされた。しかしその後、そうした道教の聖地としての性質は忘れられ、王屋山のある河南省済源市と、その隣の焦作市では、現在でも魏華存信仰が行われてはいるものの、その後山西からやって来た移民の影響を受けて変質し、王屋山自体も民間教派に由来する無生老母信仰に圧倒されてしまっている。また現在、中国国内では一般に「愚公移山」の舞台として知られており、毛沢東がこの故事を喧伝したこともあって、観光客の多くはむしろこれを目当てに王屋山を訪れているようである。

ところで、済源市や焦作市には現在もう一つ著名な存在がある。それは、当該地域で産出される漢方の薬材の「四大懐薬」である。『中国医学史辞典』では以下のように説明されている[*1]。

> 【四大懐薬】中国薬学において、四種類の伝統的な漢方薬材の呼称で、(一)懐地黄、(二)懐山薬、(三)懐牛膝、(四)懐菊花を指す。この四種類の薬材は、河南省の新郷地区で盛んに作られている。ここは金代は懐州に属し、元代は懐慶路となり、明代には懐慶府に改められたので、「四大懐薬」の名がある[*2]。

金代の懐州、元代の懐慶路、明代の懐慶府（以下、「懐慶」と略称）は、現在の河南省済源市、焦作市（焦作市轄区、沁陽市、孟州市、修武県、温県、武陟県、博愛県）、新郷市（新郷市轄区、衛輝市、輝県市、長垣市、新郷県、獲嘉県、原陽県、封丘県、延津県）を包含する行政区画である。上の記述では新郷地区（すなわち現在の新郷市）としているが、「四大懐薬」の実際の産地は懐慶全体に跨がっている。例えば図1、図2は中国の大手通販サイトである淘宝網（Taobao）で販売されている贈答用の「四大懐薬」であるが、サイト上では「焦作特産」と特記されている[*3]。価格は本稿執筆時点で98人民元である。

図3は雲台山旅游服務網（雲台山旅行サービスネット）に掲載されている、焦作市修武県雲台山で販売されている「四大懐薬」のセットである。価格は本稿執筆時点150人民元で、やはりこれも「焦作特産」と記されている[*4]。

注1…周佳榮『中國醫學史辭典』中華書局（香港）有限公司、2002年、p.64。

注2…【四大懐薬】中藥學上對四種傳統道地藥材的稱謂。即：(一) 懷地黃；(二) 懷山藥；(三) 懷牛膝；(四) 懷菊花。這四種藥材盛產於河南新鄉地區，在金代屬懷州，元代歸懷慶路，明代改為懷慶府，因而稱為“四大懷藥”。

注3…https://item.taobao.com/item.htm?id=43690890593（2021年1月25日閲覧）

注4…http://www.yts.cc/shop/show.asp?id=16（2021年1月25日閲覧）

【図 1】

【図 2】

上記の雲台山旅游服務網のページには、この「四大懐薬」について、以下のような説明が掲載されている。

1、地黄。『本草綱目』によれば、地黄は（焦作市の）孟州市においてすでに千年以上の歴史がある。大きく、油性を持つ大きな地黄は「地髄」とも呼ばれ、病気を治し栄養を補う良薬である。

2、山薬。昔は「薯芋」と称した。甘味と寒性が脾臓に入り、血を潤して肺に入り、胃を養って脾臓を健やかにし、下痢を停めて精の漏れを改善し、陰の気を潤して陽の気を強壮にし、寒熱の邪気を取り除き、心血の不足を補うといった効果がある、優れた滋養薬である。

【図 3】

3、牛膝。根本の部分に牛の膝に似た節があるため、この名がある。利尿、強壮、血行促進の効果がある。

4、菊花。幹、葉、茎、根、花、いずれも薬とすることができる。やや寒性を持ち、甘味と苦味がある。殺菌消毒、解熱、解渇、平肝、明目などの効果がある。フラボノイド、ビタミン A、ビタミン B、アミノ酸、さらに大量の揮発油を含有し、味が濃く煮ても崩れないという特徴がある。

「四大懐薬」は国内でよく知られているだけでなく、海外でも人気が高い。東南アジア諸国では、「四大懐薬」が贈答品として用いられている。日本やイギリスなどの国では、「四大懐薬」は「華薬」と呼ばれている。現在、(焦作市の)武陟県と温県における地黄、山薬、菊花、牛膝、菊花の年間輸出量は 240 万トン以上にも及ぶ[*5]。

ここで述べられている「四大懐薬」の効果は、中薬研究の分野において検証が行われており、決して「民間療法」「迷信」の類ではない[*6]。なお上記の引用で、日本やイギリスなどの国では、「四大懐薬」は「華薬」と呼ばれている、という記述は正確ではないが、これは後述するように「四大懐薬」の一部が現在の日本でも輸入され、一般に流通していることを表しているものと思われる。

さて、本稿ではこの「四大懐薬」の内容と成立について、明・李時珍の『本草綱目』の記載などを手がかりに検討を行い、そこから王屋山と魏華存の関係や、明代以降の懐慶の状況について、初歩的な考察を進めてみたいと思う[*7]。

## 2．牛膝

注 5… 1、地黄：据《本草纲目》记载，地黄在孟州市已有 1000 多年的历史。块大、油性大地黄又名“地髓”，是治病营养的好药。

2、山药：古称“薯芋”，具有甘寒入脾、润血归肺、养胃健脾、止泻固精、滋阴壮阳、除寒热邪气、补心血不足等功能，是一种较好的滋补药。

3、牛膝：因其基部有节似牛膝而名，具有利尿、强精、通精之功效。

4、菊花：其干、叶、茎、根、花都可入药，性微寒，味甘苦，具有杀菌消毒、清热、解渴、平肝明目等功效，且含有丰富的菊花色素、维生素 A、B 和氨基酸以及大量的挥发油，有味浓和煎煮不败之特点。
“四大怀药”不仅在国内颇有名气，而且也深受海外人士的盛赞。在东南亚各国，人们把“四大怀药”当作稀贵礼品相互赠送。日本、英国等国家把“四大怀药”称为“华药”。目前，武陟、温县等县年产山药、地黄、菊花、牛膝年出口量达 400 多千万斤。

注 6…李献平、倪允孚「四大怀药延缓衰老作用的研究」『中西医结合杂志』1991 年第 8 期、中国中西医结合学会、1991 年、pp. 486-487。

注 7…『本草綱目』のテキストは国立国会図書館所蔵のいわゆる金陵本に拠り、

牛膝は、ヒユ科の特定の植物の根を乾燥させたものである。『本草綱目』第十六巻「草部・草之五・牛膝」には以下のように記されている。

> （漢末の）『名医別録』に言う。「牛膝は河内（すなわち懐慶）の渓谷や、臨朐（現在の山東省濰坊市）に産する。二月、八月、十月に根を採取して陰干しにする。」…陶弘景は言う。「いま近在の地域の中では蔡州（現在の河南省駐馬店市）で産するものが最も良く、たいへん柔らかくて潤っている。」…（五代の）『大明本草』に言う。「懐州（すなわち懐慶）のものは長くて白く、また蘇州（現在の江蘇省蘇州）のものは紫色である。」（宋の）蘇頌は（『本草図経』で）言う。「いま、江淮（現在の江蘇省、安徽省）、閩粤（現在の福建省、広東省）、関中（現在の陝西省）にもあるが、懐州（すなわち懐慶）の本物には及ばない。」…李時珍は言う。「牛膝は各地にあり、土牛膝と呼ぶが、これは服食に耐えない。北方や四川の人家で栽培したものが良品である」[*8]。

上の記述から、懐慶産の牛膝はその品質の良さによって、漢代からすでに知られていたことが分かる。陶弘景が「いま近在の地域の中では」と断った上で蔡州産を挙げているのは、南朝では入手が難しかった北方の薬材の代替品を南方で求めた結果だろう。なお、李時珍が挙げている三種の牛膝は、それぞれ江南の土牛膝（Achyranthes longifolia、ヒユ科ヤナギイノコズチ）、北方すなわち懐慶の懐牛膝（Achyranthes bidentata、ヒユ科ヒナタイノコズチ）、四川の川牛膝（Cyathula capitata、ヒユ科イノコズチモドキ）だと思われる[*9]。

なお、日本で江戸時代に作成された本草関係の書籍に描かれている牛膝は、いずれも懐牛膝の形状となっているため、当時中国から輸入され日本で流通したのは懐牛膝であることが推測される[*10]。そうした状況は現在でも続いており[*11]、例えば漢方薬の販売サイトである「ナガエ薬局」では、以下のような説明文とともに販売が行われている[*12]。

> 懐牛膝（カイゴシツ）　刻・500g（SY）
> 漢方で婦人の月経不調、「お血」を治す要薬とされており、また利尿作用があり、腰脚・関節の疼痛・痲痺・排尿不利に応用される。
> 産地　中国
> 販売価格（税込）：3,575円

懐牛膝を用いた漢方薬には様々な種類があるが、現在の日本でよく知られているものの例としては「牛車腎気丸」が挙げられる。厚生労働省が定める「日本薬局方」では、以下のように記されている[*13]。

標点符号は人民衛生出版社の1977年排印本を、訳文の作成にあたっては『中薬大辞典』（上海科学技術出版社、小学館［編］、小学館、1985年）を参照した。

注8…《別録》曰：牛膝生河内川谷及臨朐，二月、八月、十月采根，陰乾。…弘景曰：今出近道蔡州者，最長大柔潤。…大明曰：懐州者長白，蘇州者色紫。頌曰：今江淮、閩粤、關中亦有之，然不及懐州者爲真。…時珍曰：牛膝處處有之，謂之土牛膝，不堪服食。惟北土及川中人家栽蒔者爲良。

注9…陳其位「漢薬・牛膝の生薬学的研究」『生薬学雑誌』16（1）、日本生薬学会、1962年、pp.24-45。

注10…「漢薬・牛膝の生薬学的研究」p28。

注11…https://www.uchidawakanyaku.co.jp/tamatebako/shoyaku_s.html?page=046（2021年1月25日閲覧）

注12…https://www.nagae-ph.com/products/detail.php?product_id=1669（2021年1月25日閲覧）

注13…https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11120000-Iyakushokuhinkyoku/JP17.pdf（2021年1月25日閲覧）p.1794。

牛車腎気丸エキス　Goshajinkigan Extract
製法：ジオウ 5g　サンシュユ 3g　サンヤク 3g　タクシャ 3g　ブクリョウ 3g　ボタンピ 3g　ケイヒ 1g　ブシ末（ブシ末 1）1g／ブシ末（ブシ末 2）1g　ゴシツ 3g　シャゼンシ 3g

当該薬について、「ナガエ薬局」サイトでは以下のような説明文が付されて販売されている[*14]。

牛車腎気丸の処方構成：地黄　山茱萸　山薬　牡丹皮　沢瀉　茯苓　桂皮　附子末　牛膝　車前子

牛車腎気丸は、地黄、山茱萸、山薬の三つの補薬（三補）が中心です。三補の働きは腎陰や腎性を補い、発育の促進、老化の抑制を助けます。また、三瀉と呼ばれる牡丹皮・沢瀉・茯苓は、余分な熱や水滞を取り除いて補薬の効果を高め、処方全体の薬性を穏やかにし、長期服用を可能にしています。また、温陽散寒の附子、桂皮が血行を促進して全身を温め、特に腰から下が冷えて重だるい、腰痛など腎陽虚の症状を除く作用があります。これら八味地黄丸の処方に、牛膝・車前子を加え利水作用をさらに強力にした処方になっています。
効果・効能：体力中等度以下で、疲れやすくて、四肢が冷えやすく尿量減少し、むくみがあり、ときに口渇があるものの次の諸症：下肢痛、腰痛、しびれ、高齢者のかすみ目、かゆみ、排尿困難、頻尿、むくみ、高血圧に伴う随伴症状の改善（肩こり、頭重、耳鳴り）

牛車腎気丸の構成を見ると、牛膝（ゴシツ）だけでなく、ほかの「四大懐薬」の地黄（ジオウ）と山薬（サンヤク）も使われていることが解る。牛車腎気丸は本邦で一般的な漢方薬であり、現代日本でも懐慶産の薬材は普通に流通しているのである。

ちなみに、西晋の時代に魏華存が現在の済源市や焦作市に拠ったのは[*15]、王屋山の神秘的な地形や、洛陽からの距離、さらに丹砂のような鉱物系の薬材を産出する土地柄などが理由として挙げられる。しかしさらに、懐慶産の牛膝が当時すでによく知られた存在だったのなら、こうした薬草の存在も関係していたと考えることができるだろう。また、南朝で入手が困難となった北方の薬草を、陶弘景が近在の物で代替しようとしたあり方は、王屋山の魏華存信仰や洞天思想を江南に移植し、茅山で信仰活動を行なったことと並行した現象として捉えることもできるだろう。

注 14…https://www.nagae-ph.com/products/detail.php?product_id=88（2021 年 1 月 25 日閲覧）

注 15…魏華存は王屋山だけでなく、焦作の静応廟にも居住したとされる。鈴木健郎「平成 23 年度第 2 回洞天調査報告　王母洞・靈山洞（王屋山）および静応廟・木澗寺・修仙洞（沁陽市）」『洞天福地研究』第三号、2012 年、pp.92-107。

## 3．地黄

地黄は、ゴマノハグサ科のジオウの根を乾燥させたものである。『本草綱目』第十六巻「草部・草之五・地黄」には以下のように記されている。

> （漢末の）『名医別録』に言う。「地黄は咸陽の河川や湖沼の、黄色い土のものが良い。二月と八に根を採って陰干しにする。陶弘景は言う。「咸陽とは長安のことである。渭城（現在の咸陽市渭城区）のものは形状が小麦に似た品種である。今は彭城（現在の江蘇省徐州）の乾地黄が最も良く、歴陽（現在の安徽省馬鞍山市）のものがこれに次ぐ。近在の地域では江寧板橋（現在の江蘇省南京市）のものが勝っている。」…李時珍は言う。「今の人々は懐慶の地黄だけを上等品としているが、地域や時代によって流行り廃りがあるだけでのことである。」…陳嘉謨は（『図像本草蒙筌』で）言う。「江蘇や浙江の畑で植えたものは、南方の陽の気を受けているため、つややかで潤いはあるが、効果は弱い。懐慶の山で産したものは、北方の純粋な陰の気を受けているため、皮はブツブツしているが、効果は強い[*16]。

上の記述から、地黄は牛膝と違い、古くは陝西省中部や江南北部のものが知られており、懐慶産が人気になったのは明代になってからであることが解る。

懐地黄も懐牛膝同様、現在の日本で漢方薬の原料として流通している。中国から漢方薬の調達を行っている日本の福田龍株式会社のサイトの「ジオウ（地黄）」のページには、「基原」の項目で以下のような説明がある[*17]。

> カイケイジオウ（懐慶地黄） Rehmannia glutinosa var. hueichingensis
> アカヤジオウ（赤矢地黄） Rehmannia glutinosa var. purpurea
> ゴマノハグサ科　多年生草本
> カイケイジオウは河南省懐慶を主産地とする品種。現在流通している地黄のほとんどが輸入品で、その多くは中国産のカイケイジオウの根である。

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所の「薬用植物総合情報データベース」（http://mpdb.nibiohn.go.jp/）で、カイケイジオウは以下のように記されている[*18]。

> 植物名　カイケイジオウ
> ラテン名　Rehmannia glutiosa Libosch. f. hueichingensis (Chao et Schih) Hsiao

注 16…《別錄》曰：地黄生咸陽川澤黄土地者佳，二月、八月采根陰乾。弘景曰：咸陽即長安也。生渭城者乃有子實如小麥。今以彭城乾地黄最好，次歷陽，近用江寧板橋者為勝。…時珍曰：今人惟以懷慶地黄爲上，亦各處隨時興廢不同爾。…嘉謨曰：江浙壤地種者，受南方陽氣，質雖光潤而力微；懷慶山産者，稟北方純陰，皮有疙瘩而力大。

注 17…https://www.fukudaryu.co.jp/sozai2/jiouHP.pdf（2021 年 1 月 25 日閲覧）

注 18…http://mpdb.nibiohn.go.jp/mpdb-bin/view_plant_data.cgi?id=38&lang=ja（2021 年 1 月 25 日閲覧）

科名　Scrophulariaceae
和科名　ゴマノハグサ科
一般名　ジオウ
一般英名　Chinese foxglove

上の引用から、現在の日本で流通しているのはカイケイジオウ、すなわち懐地黄であることが解る。学名に付いている「hueichingensis」は、懐慶の中国語発音に基づいているのだろう。

懐地黄が明代になってから人気となったのは、いわゆる「懐商」の勃興の結果だと思われる。元末の動乱の際、現在の河南省北部・河北省北部・山東省西部一帯は人口が大幅に減少し、土地も荒廃したため、明の洪武帝は山西から大量に移民を送り込んで当該地域の復興事業を行った[*19]。『明太祖高皇帝実録』巻二百二十三には以下のように記されている[*20]。

> 後軍都督府の都督僉事である李恪、徐礼が都に戻り、先に李恪らに命じて移民を希望する山西の民を顕彰する件について報告を受けた。彰徳（現在の河南省安陽市）、衛輝（現在の河南省新郷市）、広平（現在の河北省邯鄲市西部）、大名（河北省邯鄲市東部）、東昌（現在の山東聊城市）、開封（現在の河南省開封市）、懐慶の七府への移民は合計五百九十八戸、今年収穫した穀物は三百万石あまり、棉花は千百八十万三千斤あまり、植えた麦の苗は一万二千百八十頃あまりだったと聞いた陛下はたいそう喜び、「この十年でわが民の中で貧しい者は少なくなった」と言った[*21]。

この時の移民の中心になったのは山西省洪洞県である。ここは元末の戦火を免れたこともあって、人口が飽和状態にあった。移民が洪洞県城の北の大槐樹に集まってから各地に散っていったという故事に基づき、これを「洪洞大槐樹移民」と称する。民国六年の『洪洞県志』巻八に以下のようにある[*22]。

> 大槐樹は県城の北の広済寺の左にある。『文献通考』によれば、明の永楽年間に山西から何度か北平、山東、河南などの地域に移民させたという。出発の際は大槐樹の下が集合場所となった。広済寺には駐在の係を置き、通行証と旅費を支給したとされる。すでに遠い昔のことで、大槐樹はもう残っておらず、寺も戦火で失われている[*23]。

このうち懐慶にたどり着いた山西移民たちは、現地で薬草を「発見」した。『武陟県志』巻二十七には以下のように記されている[*24]。

注 19…安介生『山西移民史』山西人民出版社、1999 年、pp.311-318。

注 20…「明実録、朝鮮王朝実録、清実録資料庫」（中央研究院歴史語言研究所，http://hanchi.ihp.sinica.edu.tw/mqlc/）による。

注 21…後軍都督府都督僉事李恪、徐禮還京。先是命恪等往諭山西民願徙居彰德者聽。至是還報。彰德、衛輝、廣平、大名、東昌、開封、懷慶七府民徙居者凡五百九十八戸，計今年所收穀粟麥三百餘萬石，棉花千一百八十萬三千餘斤，見種麥苗萬二千一百八十餘頃。上其喜曰：如此十年，吾民之貧者少矣。

注 22…成文出版社 1976 年影印本による。

注 23…大槐樹在城北廣濟寺左。按《文獻通考》，明永樂間屢移山西民於北平、山東、河南等處，樹下為集會之所。傳聞廣濟寺設局駐員，發給憑照川資，因歷年久遠，槐樹無存，寺亦毀於兵燹。

注 24…成文出版社 1976 年影印本による。

黄河以北は土地が肥えており、中でも沁陽（現在の焦作市沁陽市）から済源（現在の済源市）の間は薬草に適している。そのため利を得ようとする者たちは、穀物を育てるのをやめ、これらの植物を植える。武陟県（現在の焦作市武陟県）は河内県（現在の焦作市沁陽市）、温県（現在の焦作市温県）、孟県（現在の焦作市孟州市）よりは少ないが、それでも十のうち一、二はそうである[*25]。

なお、懐慶に移民を送り出した洪洞県は、もともとは金末の動乱で荒廃し、元初に陝西省中部の耀州（現在の陝西省銅川市）から移民が入植した場所である[*26]。耀州は唐代の著名な医家である孫思邈の故郷で、住民の間では孫思邈信仰が行われており[*27]、耀州からやって来た移民はこれを洪洞県にもたらした。『洪洞県志』巻八に以下のように記されている[*28]。

孫真人廟は、洪洞県城の南の安楽坂にある。中には唐の神医である孫思邈の塑像がある。元の至正年間に、里の人の賈奇が建立した[*29]。

洪洞県の耀州移民の子孫が今度は明初に懐慶へ入植した際、現地に孫思邈信仰を持ち込んだ。現在、王屋山一帯に孫思邈廟があるのはそのためである[*30]。注意すべきは、耀州・洪洞移民の孫思邈信仰は単純な偉人崇拝ではなく、医薬に関する知識も含んでいた可能性があることである。そうしたかれらが懐慶で自生する牛膝を見つけて利用し、さらに現地で地黄のような薬草を栽培していったのも当然のことだったと言えるだろう。

懐慶にやって来た移民たちは、そうして採取・栽培した薬材を最初は山西商人に売っていたが、次第に済水や黄河で移動して自分たちで販売するようになった。まず、明末崇禎年間に湖北省漢口で懐薬の販売拠点を構え[*31]、さらに康熙十八年に杜盛興、乾隆年間に協盛全といった懐慶系の薬商が勃興した[*32]。かれらは「懐商」と呼ばれ、漢口薬王廟（湖北省武漢市、康熙二十八年建立）や、安国薬王廟（河北省保定市、乾隆五十四年建立）など、中国各地に自分たちの商業活動の拠点となる孫思邈廟（懐慶会館）を建設し、清末に至るまで中華圏全体の薬材の生産・流通を牛耳っていった[*33]。

## 4．山薬と菊花

次の山薬は薯蕷とも言い、ヤマノイモの根から外皮を剥いで乾燥させたものである。『本草綱目』第二十七巻「菜部・菜之二・薯蕷」には以下のように記されている。

注 25…河朔地多肥美，其近於沁、濟間者，尤宜於藥草，騖利之徒遂捨穀稼而專植他物。武陟較少於河內、溫、孟、然亦居十之一、二。

注 26…安介生『山西移民史』p.284。

注 27…孫思邈廟がある銅川市耀県薬王山については以下も参照。土屋昌明「2010 年夏期第 2 回洞天調査の概要―嵩山・華山・終南山―」『洞天福地研究』第二号、2012 年、pp.3-20。

注 28…成文出版社 1976 年影印本による。

注 29…孫真人廟在縣南安樂坂，內塑唐神醫孫思邈像。元至正間，里人賈奇建。

注 30…山下一夫「王屋山の伏虎降竜説話」『洞天福地研究』第五号、2014 年、pp.37-50。

注 31…王默、尹忠华「汉正街的"药帮"与药王庙」『武汉文史资料』2007 年第 7 期、武汉文史资料杂志编辑部、2007 年、pp.54-57。

注 32…李佐荣、崔祥荣「"药帮"、"药帮巷"与药王庙」『武汉文史资料』1999 年第 3 辑、武汉文史资料杂志编辑部、1999 年、p.239。

注 33…程峰『怀商的历史与文化－豫商发展史与豫商案例研究』河南人民出版社、2007 年。

（漢末の）『名医別録』に言う。「薯蕷は嵩山（現在の河南省登封市の嵩山）の谷に産する。二月と八月に根を採って晒し、乾燥させる。…魏の呉普は（『呉氏本草』で）言う。「また臨朐（現在の山東省濰坊市）や鍾山（現在の江蘇省南京市）にも産する。」…陶弘景は言う。「近在の地域でもあちこちにあり、東山や南江はどちらも多い[*34]。」…（宋の）蘇頌は（『本草図経』で）言う。「各地にあるが、北都（現在の山西省太原）と四明（現在の浙江省寧波）のものが良い。」…李時珍は言う。「薯蕷を薬とするなら野生のものが勝る。しかし食べるのならば栽培したものの方が良い」[*35]。

『名医別録』に出てくる嵩山は、懐慶と同じ河南省にあるが、懐慶産が良いという記述は少なくとも『本草綱目』には無い。しかしその後、「懐山薬」について言及する資料が現れる。まず、万暦四十三年の明・龔廷賢『新刊医林状元寿世保元』の巻四「六味地黄丸」には懐地黄のほか、懐山薬が原料として記されている[*36]。

懐生地黄（八両。本物の懐慶の生乾地黄が必要である。酒洗を施し、鍋に入れて黒くなるまで蒸す。胃が弱く消化が滞るのならば、さらに生姜汁を加えてかき混ぜ、もう一度しばらく蒸してから取り出し、手でちぎって入れた後、薬と一緒に搗いて餅状にする。いま市場で出回っている熟地黄は、みな鉄鍋で煮沸してあるので、用いてはならない）。山茱萸（酒で蒸して剥いたあと果肉の部分を取り出して乾燥させる、四両）。懐山薬（四両）。白茯苓（皮を取り除く、三両）。牡丹皮（土を取り除く、三両）。沢瀉（毛を取り除く、三両）[*37]。

また、『紅楼夢』第十回に登場する「補脾和肝湯」には、原料に懐山薬が用いられている[*38]。

先生はそれを聞いて言った。「解った、それが病気の元だ。もし前から養生の薬を飲んでいれば、ここまでひどくはならなかったのに、今は明らかに『水性が欠けて木性が盛んになる』という症状だ。薬を処方するから、待っていろ。」そこで処方箋を書いて賈蓉に渡した。そこには以下の様に書いてあった。「益気養栄補脾和肝湯　人参二銭。白朮二銭、灶心土で炒める。雲苓三銭。熟地四銭。帰身二銭、酒洗を施す。白芍二銭、炒める。川芎銭半。黄芪三銭。香附米二銭。製醋柴胡八分。懐山薬二銭、炒める。真阿膠二銭、蛤粉で炒める。延胡索銭半、酒で炒める。炙甘草八分。引用建蓮子七粒、芯を取り除く。紅棗二枚」[*39]。

注 34…「東山や南江」が現在の何処にあたるのかについては議論があるが、すぐ前の部分で呉普が臨朐（現在の山東省濰坊市）と鍾山（現在の江蘇省南京市）を挙げていることから、東山は山東、南江は江南を表すとされる。冯学锋、黄璐琦、格小光、杨连菊、杨京玉「山药道地药材形成源流考」『中国中药杂志』第 33 卷 第 7 期、2008 年、pp.859-862。

注 35…《別錄》曰：薯蕷生嵩高山谷。二月、八月采根暴乾。…普曰：亦生臨朐、鍾山。…弘景曰：近道處處有之，東山、南江皆多。…頌曰：處處有，以北都、四明者為佳。…時珍曰：薯蕷入藥，野生者為勝；若供饌，則家種者為良。

注 36…『續修四庫全書』1021 子部醫家類（上海古籍出版社，2006 年）影印南京図書館日本正保二年（1645）風月宗知刻本。

注 37…懐生地黄（八兩，要真懐慶生乾地黄，酒洗淨入砂鍋內蒸黑為度，如病胃弱畏滯，再加生薑汁拌勻，再蒸半晌取出，用手掐斷入後，藥同搗成餅，今市賣熟地黄，皆是用鐵鍋煮過，則不可用者矣）山茱萸（酒蒸剝去複選肉曬乾，四兩）懐山藥（四兩）白茯苓（去皮，三兩）牡丹皮（去上，三兩）澤瀉（去毛，三兩）

注 38…文源書局校点本、1976 年、p99。

明末以降、懐慶産の山薬が急に流通していったのは、明らかに前章で見た懐慶での薬材生産の開始と、その結果としての懐商の活躍の結果であろう。

次の菊花は、キクの花を乾燥させたものである。『本草綱目』第十五巻「草部・草之四・菊」に以下のように記されている。

> (漢末の)『名医別録』に言う。「菊花は雍州の沢や野原に生えている。」…(宋の)蘇頌は(『本草図経で』)言う。「どこにでもあるが、南陽の菊潭(現在の河南省南陽市内郷県)のものが優れている。」…李時珍は言う。「菊の品種は百種もあり、宿根性で自生している。茎、葉、花の色はそれぞれ品種によって異なる」[*40]。

菊は解熱などに用い、非常に用途の広い薬材である。それこそ蘇頌の言うように「どこにでもある」ので、特に懐慶産が優れているわけでもないのだろうが、これも他の薬材と同様、懐慶で栽培が行われ、懐商が販売していくことで、「四大懐薬」の一つとなったものと思われる。

ただしこの「四大懐薬」という表現は、管見の限りでは明清や民国の文献には見出すことができない。中華人民共和国初期の段階でも同様で、例えば以下の1950年12月10日の「中央による華北土産会議の転載報告」では[*41]、「四大懐薬」とは言わず、「懐薬(山薬、地黄、菊花など)」と言っている[*42]。

> 地区全体における薬材の年間生産量は六億斤であるが、平原省(現在の河北省の一部と山東省の一部)の沁陽一帯(現在の河北省焦作市沁陽市)で生産されている懐薬(山薬、地黄、菊花など)がよく売れている以外は、いずれも停滞している。しかし努力すれば販売量を増やすことができるだろう。なぜなら大多数の農民は今でも中薬を飲んでいるからである。…今回の会議では、各戦略区の間の物通について国家の指導で全国の合作総社が契約を行うこととしたほか、以下のような方針が決まった。…五、以前の商業ネットワークは多くが戦争と土地改革の過程で破壊され、これに替わる新しい体制がまだ作られていないことが、物流の大きな妨げになっている。例えば上海の薬材商人が平原省に赴いて懐薬を購入しようとしても、保管する倉庫が無いため、そのまま戻らざるを得ないという状況にある。そのため現在、国営貿易と合作社が、主要な中小都市に積極的に倉庫を建設してはいるが、これ以外に私営の商人も建設に動員する必要がある。過去の商業ネットワークも回復させつつ、新たな商業ネットワークを積極的に作り上げ、またそこにかつての商人や以前の職人を顧問として迎え、歴史的な物流ルートを研究する。これらの方法によって物流を組織するのだ[*43]。

注39…先生聽了道:「妙啊!這就是病源了。從前若能夠以養心調經之藥服之,何至於此!這如今明顯出一個水虧木旺的症候來。待用藥看看。」於是寫了方子,遞與賈蓉,上寫的是:益氣養榮補脾和肝湯。人參二錢。白朮二錢,土炒。雲苓三錢。熟地四錢。歸身二錢,酒洗。白芍二錢,炒。川芎錢半。黃芪三錢。香附米二錢,製醋柴胡八分。懷山藥二錢,炒。真阿膠二錢,蛤粉炒。延胡索錢半,酒炒。炙甘草八分。引用建蓮子七粒,去心。紅棗二枚。

注40…《別錄》曰:菊花生雍州川澤及田野。…頌曰:處處有之,以南陽菊潭者為佳。…時珍曰:菊之品凡百種,宿根自生,莖葉花色,品品不同。

注41…〈中央转发华北土产会议的报告〉

注42…「人民数据库」(http://data.people.com.cn)に依る。

注43…药材全区年产约六亿斤,除平原省沁阳一带所产之怀药(山药、地黄、菊花等)好销外,余均滞销,但如竭力经营,还可多销一些,因绝大多数农民仍吃中药。…除出由国家经营,各战略区物资交流由全国合作总社订合同办理外,此次会议又决定了以下的办法:…五、旧的商业网在战争与土改中已多被破坏,新的尚未建立,对于物资流转妨害极大。如上海药材商人曾到平

『人民日報』1956 年 8 月 29 日第 3 版掲載の「各地の決まりに基づいて様々な経済を発展させ、懐薬の生産を速やかに回復させよう」という記事でも[*44]、やはり「四大懐薬」とは言わず、山薬と地黄だけを挙げて「懐薬」と言っている。

河南省温県に産する山薬と地黄は「懐薬」と通称され（温県はかつて懐慶府に属していたため、産出される薬材を懐薬と言う）、国の内外で名を馳せている、重要な医薬の品種である。温県の地黄の特徴は、皮が細く、油水が多く、切断面が中央から表面に向かって放射状になっていることである。また温県の山薬の特徴は、硬く、薄く切ることができ、色が白いことである。調査によれば、抗日戦争以前は毎年県全体で山薬と地黄の作付面積は八万畝前後（これは県全体の耕地面積の六分の一を占める）、年間生産量は山薬が一千万斤、地黄が一千六百万斤だった。現在の物価で計算すると合わせて九百万人民元以上となり、県全体の農業生産収入の半分を占めていたことになる。また温県の農民は山薬や地黄を植えるだけでなく、山薬や地黄を加工して製品にする技術も持っていた。そのため旧時は温県の農村に薬材を仕入れに来る薬商が絶え間なくやって来ていた。…しかし抗日戦争が始まると、温県の薬材生産は他の農業生産同様、大きく損なわれた。地黄の栽培は 80% 減少し、山薬は大幅な減少は無かったが、すべて食用に供された。1947 年の温県解放後、人民政府は生産を大々的に発展させ、満足の行く購入価格を提示して農民に薬材の作付を行うよう指導した。その結果、1949 年には温県全体で山薬と地黄の作付は二万九千畝以上にまで回復し、産出量は山薬が二百四十斤以上、地黄が三百万斤以上となり、当該地域の農村経済は大きく躍進した。しかし 1950 年以後は、薬材の作付畝数は日に日に下降していった。…温県の薬材生産はなぜ減少したのだろうか。主な理由は、中共温県県委員と温県人民委員会が、農民に生産指導を行う際、穀物や綿花を重視し、薬材のような特産物を軽視して、農民が特産物を育てるのは資本主義路線であるから、特産物を植える農民には肥料を供給しない、と言ったことである。これによって農民の間に特産物を植えるのは恥であるという考えが芽生え、また特産物を植えても食糧を買うことはできないという錯覚を植え付けた。さらに購入価格も極めて低く設定されたため、農民が特産物の作付を行う積極性に大きな打撃を与えた。…中共温県県委員は過去の教訓を受け止め、農業生産合作社が来年には多くの山薬と地黄の作付を行えるよう、すみやかに指導しなければならない。また薬材購入部門も、農民たちが満足の行く価格で購入を行うことで、農業生産合作社が懐薬の生産を回復・発展させ、農民の収入を増やし、農村経済を活性化できるよう指導しなければならない[*45]。

原采购怀药，但因无货栈代收，困难很大，结果又回去了。故目前国营贸易和合作社除本身积极在主要的中小城市建立货栈外，并应动员私商也去建立。要努力恢复过去的商业网，并积极建立新的商业网，邀请老商人老工匠当顾问，研究历史上物资流转门路，根据这些门路组织物资交流。

注 44…〈因地制宜发展多种经济　赶快恢复“怀药”生产〉

注 45…河南省温县所产的山药、地黄，通称“怀药”（温县过去属怀庆府，故所产药材称怀药），驰名国内外，为医药中重要品种。温县地黄的特点是：皮细、油水大、菊花心；山药的特点是：质坚、刨片薄、色泽洁白。据调查，抗战前全县每年种山药、地黄面积在八万亩左右（占全县总耕地面积六

分之一），年产山药一千万斤，地黄一千六百万斤。按现在价格计算，约合人民币九百万元以上，几乎占全县农业生产收入的一半。温县农民不仅有种植山药、地黄的技术，而且还能把山药、地黄加工制成成品，所以在过去的温县农村中，收购药材的客商络绎不绝。…但是，从抗日战争爆发以后，温县的药材生产和其它农业生产一样，遭到了极其严重的摧残和破坏。地黄种植减少80%；山药虽没大减少，但都作为代食品吃掉。1947年温县解放后，人民政府大力发展生产，并以合理的收购价格指导农民种植药材。1949年温县全县恢复种植山药、地黄已达二万九千多亩，产山药二百四十多万斤，地黄三百多万斤，这就大大活跃了农村经济。可是，1950年以后，种植药材亩数又日趋下降。…温县的药材生产为什么会减少呢？主要是中共温县县委和温县人民委员会，在指导农民生产时有重视粮棉轻视特产的思想，说农民种植特产是走资本主义路线，有肥料也不供应给种特产的农民。这就使农民思想上产生了种特产耻辱、种特产不易买到粮食等错觉。再加上收购价格偏低，严重打击了农民经营特产的积极性。…中共温县县委应该接受过去的教训，及早领导农业生产合作社做好明年种植山药、地黄的准备工作。收购药材的部门，应该用合理价格来收购，以指导农业生产合作社恢复和发展怀药生产，增加农民收入，活跃农村经济。

上記二つの引用で共通して欠けているのは牛膝である。前述のとおり、牛膝は歴史的に最も早くから知られていた懐慶産の薬材だが、おそらく中華人民共和国初期には生産がもう行われていなかったか、生産されていたとしても規模が縮小されていたものと思われる。三つ、ないしは二つしかなかったため、「四大」と言えなかったのだろうが、しかしもし「四大懐薬」という表現が熟していて、一般に知れ渡っていたのなら、なぜ牛膝が欠けているのか、記事の中で言及があるのが普通だろう。それが無いということは、やはりこの時点ではまだ「四大懐薬」の枠組が成立していないと考えるのが自然である。なお、「中央による華北土産会議の転載報告」にはあった菊花が、『人民日報』の記事には触れられていないのは、菊花が蘇頌の言うように「どこにでもある」もので、懐慶産が特に優れているという文献が見当たらないことと関係があるのかも知れない。

『人民日報』での「四大懐薬」の初出は、1965年12月4日第3版の「地黄、牛膝、山薬、菊花の河南四大懐薬は豊作、湖北の製紙原料のヨシとジャノヒゲも収穫高は良好」という記事である[*46]。

> 河南で産出される地黄、牛膝、山薬、菊花の四大懐薬はいずれも豊作となった。現在、地黄はすでに大量に市場に出回っている。供給販売部門の統計によれば、九月から十月に買い付けた地黄の数は、去年の同時期に比べて50%増加しており、またサイズも大きく、品質も良い。四大懐薬は、旧時代において主に河南の懐慶府で産出したため、この名がある。懐薬を生産している温県（現在の焦作市温県）、孟県（現在の焦作市孟州市）、沁陽県（現在の焦作市沁陽市）、博愛県（現在の焦作市博愛県）などの農民は、今年たんねんに土地をならし、質の良い肥料を入れることで、薬材の生産量を増加させた。幾つかの県では薬材の作付面積も拡大させており、温県は今年、地黄や山薬などの薬材の作付が去年より三千畝以上増えている[*47]。

先に引用した1950年12月10日の「中央による華北土産会議の転載報告」と、『人民日報』1956年8月29日第3版の記事からは、旧時は懐慶で薬材の栽培が盛んだったが、日中戦争で壊滅的な打撃を受け、中華人民共和国建国後はいったん回復したものの、流通網の未整備や商品作物の忌避によって再び生産量が減少したため、中国共産党中央が改善を指示した、という流れが見える。そして上記の1965年12月4日第3版の記事によって、その後の約10年間で党中央の指示どおりに増産が行われたことや、牛膝の生産も復活していたことが分かる。これによって「四大懐薬」という、現在の枠組が成立したの

だろう。

## 5．おわりに

以上、「四大懐薬」の内容と成立について検討してきた。ここで得られた材料から、これまで筆者が発表して来た王屋山の宗教信仰に関する論考で扱った内容について[*48]、その歴史的展開を整理すると、以下のようになる。

（一）西晋時代に魏華存が王屋山を拠点としたのは、もちろん様々な理由があるが、現地に自生していた薬草の存在が要因だったのではないか。魏華存の足跡が王屋山だけでなく、焦作市にも及んでいるのも、これが関係しているものと思われる。

（二）王屋山は唐代に全国の洞天の首位に立つ「第一大洞天」とされたが、上清経に拠る立場が弱体化することで、これが立脚していた洞天思想は次第に忘れられていった。その後、全真教が伝播し、廃れた道観の復興も行われた。

（三）元初に陝西省銅川市から山西省洪洞県、明初に山西省洪洞県から河南省懐慶に移民が入植したことで、孫思邈信仰とそれに伴う薬方もこのルートで伝播していった。懐慶で薬草を発見したかれらは、薬材の栽培・加工・販売を始め、やがて中華圏における薬材の流通を担う「懐商」となった。その影響は江戸時代の日本にも及んでいる。

（四）同じく洪洞県からの移民によって持ち込まれた二仙信仰と結合することで、在来の魏華存信仰は変質を被った。薬材生産とも結びついたが、医神としては別に孫思邈が存在するため、「魏華存は鹹米飯を与えて唐の太宗を救った」という物語が成立した。

（五）懐商は中華民国初期には没落したが、そこに民間教派が入り込んできて無生老母信仰を広め、王屋山をその聖地に変えた。

（六）戦後は中国共産党中央の指示によって薬材の生産が回復し、「四大懐薬」の枠組が成立して、全国的な知名度も獲得した。薬材は現在、日本にも輸出されている。

なお、中華圏の孫思邈信仰は、（三）のプロセスによって懐慶会館が作られたことで、懐慶から各地に伝播したものと思われるが、今回はこの問題について詳細な検討を行うことができなかった。これについては次稿で検討することとしたい。

【付記】
本稿は、JSPS KAKENHI Grant Number 16H03349 によるシンポジウム「洞天思想の展開とベトナム・日本」（2019 年 3 月 19 日、専修大学）での発表に基づく。

注 46…〈生地、牛膝、山药、菊花河南四大怀药丰收　湖北造纸原料芦苇、龙须草收成好〉

注 47…河南出产的生地、牛膝、山药、菊花四大怀药普遍丰收。目前，生地已大量上市。据供销部门统计，九至十月收购的生地，比去年同期增加百分之五十，生地个儿大，品色好。四大怀药古代主要产于河南怀庆府，故名怀药。今年，盛产怀药的温县、孟县、沁阳、博爱等县的社员，细致整理土地，施入优质肥料，提高了药材产量。有些县扩大了药材种植面积。温县今年种植的生地、山药等药材，比去年多三千多亩。

注 48…山下一夫「王屋山の伏虎降竜説話」（前出）。山下一夫「近現代の河南における魏華存説話」『洞天福地研究』第六号、2016 年、pp.23-37。山下一夫「王屋山と無生聖母」、土屋昌明、ヴァンサン・ゴーサール（編）『道教の聖地と地方神』東方書店、2016 年、pp.45-70。山下一夫「王屋山孫思邈傳說的形成與發展—兼談魏華存信仰的轉變」陳偉強（主編）『道教修練與科儀的文學體驗』鳳凰出版社、2018 年、pp.284-311。